



# JAPANESE JOURNAL OF MATHEMATICS

JJMは2005年の存続の危機を乗り越え、継続して出版されることになりました。2006年より3rd Seriesを創刊、最高レベルのサーベイを出版する国際学術誌(年2回発行)として生まれ変わりました。

5周年を経た2011年、トムソン・ロイター社は5年インパクト・ファクター(2010)でJJMが世界の数学の対象ジャーナル全277誌の中で12位と発表しました。

JJMの5年インパクトファクター : 1.786

## Editors

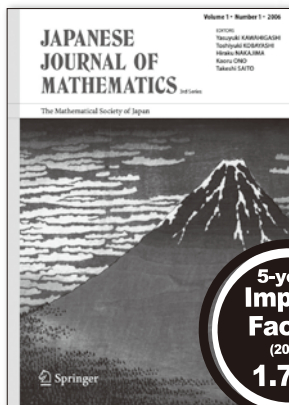
小野 薫 (京都大学数理解析研究所)

河東泰之 (東京大学)

小林俊行 (東京大学/Kavli IPMU)

斎藤 毅 (東京大学)

中島 啓 (京都大学数理解析研究所)



最新号(2015年第10巻1号)を紹介します。

G. ティアン (高木レクチャー)

『ケーラー・アインシュタイン計量とファノ多様体』

**Abstract** この論文は、正曲率を持つケーラー計量に関する概説です。2013年に京都大学数理解析研究所において開催された高木レクチャーのためのものです。まず二木不変量、K-安定性とそのK-エネルギーとの関連について議論します。次に、K-安定なファノ多様体上のケーラー・アインシュタイン計量の存在に関する、2012年の私の仕事の概略を説明します。最後に、ポールによる、ペアの安定性に関する研究と、その私による変更を説明します。

T. チェッケリーニ・シルバーステイン, F. スカラボッティ, F. トリ  
『有限群に対するマッキーの  $\tau$  共役表現の理論』

**Abstract** この論文の目的は、バンプとギンズバーグによって一般化された、対合的反自己同型(たとえば  $g \mapsto g^{-1}$ )を持つ有限群の表現論についてのマッキーの二つの貢献を、川中と松山のもと新しい結果と共に解説することである。マッキーの第一の貢献は、弱対称ゲルファント・ペアのいわゆるゲルファント判定条件の詳しいものである。マッキーの第二の貢献は(ウィグナーによって導入された概念である)単純可約群の特徴づけである。もう一つの結果は、フロベニウス・シュアの定理のひねったバージョンであり、ここでひねったというのは上述の対合的反自己同型のことを言っている。

坂内英一, 田中太初

『付録:ある種のゲルファント・ペアと可換アソシエーション・スキームについて』

**Abstract** この論文は T. チェッケリーニ・シルバーステイン, F. スカラボッティ, F. トリの論文の付録である。我々はゲルファント・ペアに関係した特別な条件に注意を払う。すなわち、有限群  $G$  とその自己同型  $\sigma$  が以下の条件を満たすとき、条件(\*)が成り立つという: 任意の  $x, y \in G$  について  $x \cdot x^{-\sigma}$  と  $y \cdot y^{-\sigma}$  が  $G$  で共役であれば、 $K = C_G(\sigma)$  で共役である。この論文の主目的はこの条件の意味を調べ、条件(\*)を満たす(満たさない)多くの  $(G, \sigma)$  の例を示すことである。

図書委員の先生方へ: 新規購読をおすすめします。

【連絡先】 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 一般社団法人 日本数学会 Fax: 03-3835-3485

年2回発行 ISSN: 0289-2316 (冊子版) ISSN: 1861-3624 (電子版) 年間購読料 ¥25,000 + 税 / EUR198.00

彌永昌吉先生が100歳で発表された書き下ろしや、アーノルド等の特別寄稿を掲載した創刊号から、スマイルやリオンス(2-1号)、コンツェピッチ(4-1号)、コンヌ(6-1号)の書き下ろしを掲載した各号、最新号も冊子単位で購入できます。会員割引 ¥7500+税/冊子 もあります。

広く一般の会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。



一般社団法人 日本数学会

投稿規定は <http://www.springer.jp/JJM/>